

会議等開催結果報告書

1. 会議名	令和4年度(2022)第2回出雲市介護保険運営協議会		
2. 開催日時	令和4年(2022)10月20日 木曜日 14:00～16:00		
3. 開催場所	出雲市役所 本庁6階 全員協議会室		
4. 出席者	<p><委員></p> <p>飯國吉子委員、石飛均委員、磯田洋平委員、伊藤智子委員、岩崎陽委員、大澤啓悟委員、大島里香委員、金森功委員、川谷吉正委員、小林祥也委員、塩飽邦憲委員、須谷生男委員、高橋幸男委員、中本稔委員、原洋子委員、福井寿光委員、福場由紀子委員、福間昇委員、松本弘委員、山崎文夫委員 (50音順)(20名)</p> <p>欠席：嵐谷直美委員、加藤哲夫委員、祝部裕子委員、槇野浩之委員、三原順子委員(5名)</p> <p><傍聴人>(1名)</p> <p><事務局></p> <p>健康福祉部長、高齢者福祉課長、医療介護連携課長 ほか</p>		
5. 会議等において検討された事項等	<p>1 開会</p> <p>2 健康福祉部長あいさつ</p> <p>3 会長あいさつ</p> <p>4 議事</p> <p>(1) 第9期計画策定に向けた各種調査の実施について</p> <p style="padding-left: 20px;">①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査について 資料1</p> <p style="padding-left: 20px;">②在宅介護実態調査について 資料2</p> <p>5 報告事項</p> <p>(1) 第8期出雲市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の進捗状況について 資料3</p> <p>(2) 介護サービス施設等の整備の公募選定結果及び今後の方針について 資料4</p> <p>(3) 人材確保・定着に係る施策に関するアンケート調査結果について 資料5</p> <p>(4) 第9期計画策定に向けたスケジュールについて 資料6</p> <p>6 その他事項</p> <p>(1) 認知症ケア・フォーラムの開催について</p> <p>7 閉会</p>		
6. 担当部署	健康福祉部高齢者福祉課、医療介護連携課	連絡先	0853-21-6212
7. 会議録	別添のとおり		

令和4年度(2022)第2回出雲市介護保険運営協議会会議録(要旨)

<p>4. 議事</p> <p>事務局</p> <p>会長</p> <p>委員</p>	<p>「<u>介護予防・日常生活圏域ニーズ調査</u>」・「<u>在宅介護実態調査</u>」の説明 資料1・2</p> <p>調査項目については、地域支援部会で議論していただきました。</p> <p>いずれの調査も第9期介護保険事業計画を立てるために実施するものです。 「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の対象者のうち「事業対象者」とは、介護認定を受けずに、チェックリストを確認して総合事業を活用される方のことです。 市独自の調査項目の間1にある「ACP」とは、終末期ケアのあり方について、本人の意向を話し合っておくことを意味します。</p> <p>(質疑なし。) 異議なし。</p>
<p>5. 報告事項</p> <p>事務局</p> <p>会長</p> <p>A委員</p> <p>会長</p> <p>事務局</p>	<p>「<u>第8期の出雲市高齢者福祉計画介護、保健事業計画の進捗状況</u>」の説明 資料3</p> <p>第8期計画における介護サービス基盤整備や利用状況については、7月の介護保険運営協議会で報告がありました。 この他の事項(第4章:地域包括ケアで連携を強める取組、第5章:介護予防と生きがいがづくり、第6章:安心して暮らせるまちづくり)について、力を入れているところをトピック的に報告いただきましたが、質問等ありますか。</p> <p>高齢者の地域課題として、自家用車がない、運転ができない方の移動手段が挙がっています。本当にこのとおりです。 コミュニティセンターで話を聞いたところ、市街地でも同じように「移動手段」が課題になっていると実感しました。 生活バスがあっても、どの地域でも利用者が少ない現状であり、行きたい時に目的地に行ける便がないとの声を多くお聞きしました。利用者が少ないから便数が減り、利用したい時間の便がなくなって、さらに利用者が減る負のスパイラルに陥っています。 各地域で、どういう時間帯に、どんな車両を走らせたら良いのか、実態に合わせて検討することが今後必要だと感じています。</p> <p>市の交通システムについての検討状況はどうですか。</p> <p>地域公共交通計画について、今年度中の策定を目指し、交通政策課が事務局を務め、交通事業者や地域代表とともに検討されています。 医療介護連携課では、昨年度に高齢者あんしん支援センターの協力を得て、心身の状況に応じて、どのような移動支援が必要なのか調査しました。 その中で、要介護状態でなくても、玄関先まで迎えに来るドアトゥードアの交通で</p>

	<p>ないと外出できない高齢者と、出かける前の準備や病院等の行き先での付き添いなど移動前後の支援が必要な高齢者が一定数おられることを確認し、そういった点にも配慮した移動支援が必要だと、計画検討ワーキングに提案し議論いただいています。</p> <p>バスのダイヤを含む利便性の向上についても、今回の公共交通計画の中で議論されると思われ、容易な課題ではないと思いますが、結果に期待しているところです。</p>
<p>会長</p>	<p>交通の問題は、以前から出ている課題で、高齢者の免許返納にどう対応するのか、独居や高齢者のみ世帯が増加する中で移動手段をどう確保するのか、喫緊の課題となっています。特に海岸部や山間部では、深刻な問題です。</p> <p>出雲市は、松江市のような市営バスを持っておらず、主要な交通網が東西をつないでおり、中山間地域につながる南北方向の交通が脆弱なのは、障がい者にも大きな課題ですが、打つ手が限られてるとというのが現状かと思います。</p> <p>こうした中、関係者に議論を進めていただいている現状です。</p>
<p>事務局</p>	<p><u>「介護サービス施設等整備の公募選考結果及び今後の方針について」資料4</u></p>
<p>会長</p>	<p>介護保険サービス施設の整備について、応募のなかった2事業について、機能及び必要人員等について説明いただきました。</p> <p>「看護小規模多機能型居宅介護」は、登録した利用者が泊まり、訪問看護、訪問介護も受けられるもので、在宅への退院直後や、がん末期の対応（看取り含む）、病状が不安定な在宅患者のサポート、介護者が疲れた際に一時的に利用するレスパイトケアなどを担う、医療ニーズの高い方に対応するサービスです。</p> <p>既存の施設は、医療機関に併設したところが多く、必要な看護職員を法人内で融通されており、看護師の人材確保が難しい中、新設事業者の参入は難しいようです。</p> <p>「定期巡回」は、定期的に高齢者宅を回るもので、サ高住や有料老人ホームといった介護の機能を持たず、看護師もいないところを効率的に回れないと事業として成り立ちにくいので、どちらかという都市部において、複数のサービスを提供する事業者が実施している状況にあります。</p> <p>このように、ニーズが限られ、スタッフの確保や収益面で運営が難しい事業ですが、今後この事業の必要性は高まると考えています。</p> <p>国も、地域医療計画において、急性期の病床を減らして、慢性期とかりハビリ病棟を増やすとしており、慢性的な医療ニーズが比較的高い方への介護に関しては、「介護医療院」を新設して対応するという動きが見られます。さらに訪問診療、訪問看護が活性化する中で、隙間を埋めるサービスとして「定期巡回」が提案されていますが、都市部でかなり広がっているのに反し、出雲市を含む地方では、スタッフ確保、定員の充足が課題で広がっていません。</p> <p>事業所による人材確保等は、すぐには対応できないので、第9期計画期間中の整備について検討している市内事業所とコミュニケーションを図りながら対応していくとよいと思います。</p>

事務局	「介護人材の確保・定着に係る施策に関するアンケートの調査結果」の説明資料5
会長	課題である介護人材の確保等については、ここ数年、ワーキングを作ったり、調査を行っているところですが、実態としては、業者を介した求人等を行っても正規職員の充足の目途が立たず、非正規職員で対応している現状にあります。
B委員	人材確保について、希望のある意見とか思いを言いたいのですが、出なくて困っています。言うと愚痴になってしまいます。
C委員	外国人人材の採用が進まない理由の中で、受入経費が高額だと聞きました。具体的に、こういった費用が高額なのか知りたいです。
事務局	特定技能実習生は、監理団体という送り出し組織を通じて受け入れており、日本語教育を含む人材育成に係る費用が上乘せされるため、受入経費が高くなっています。 また、その他の制度を使った場合を含め、日本で働ける期間に制限があるため、市内の事業所で働いておられる外国人は、在留資格を持って市内に住んでおられる方がほとんどです。
C委員	外国人人材の定着率が低いと聞いています。市として、第9期計画に向けて、事業者に対する外国人人材育成の費用助成に取り組む考えはありませんか。
事務局	県が、外国人材受入環境整備に関する補助制度を持っています。 市としては、県への上乗せ補助はしない方針なので、状況を見て県に拡充を求めたり、県補助で補えない部分があれば、実施を検討する必要があると考えています。
会長	日本語研修を終えた方が、技能実習生として来るので、準備費用は高額になります。 私の関係先でも、主にミャンマーの技能実習生6名を受け入れましたが、自国の政情不安やコロナ禍の影響で、試験に合格した者も含めて半数以上が帰国しました。 受入費用が高額であるうえ、現場で教えることも多く、定着率も低い現状であり、外国人材の活躍に期待していますが、制度の見直しなどが必要だと感じています。
D委員	I C Tや介護ロボットの導入により、「楽になった」等のよい報告はありますか。
事務局	介護ロボット、I C Tの導入については、県が助成しており、実績報告を受けていると思いますが、市ではまだ十分な情報収集ができておりません。 今後、介護ロボット、I C Tの導入事業所に対し、便利になった点や、介護にどのように活かされているかを調査します。介護スタッフが不足している現状や、介護職員の負担軽減を図るため、市としても積極的に情報収集に努めます。
会長	筑波大学で開発されたHAL（ロボットスーツ）が、大田市の特別養護老人ホーム

	<p>に導入されました。軽量化され、体格に合わせて調整でき、動きをサポートするもので、移乗、移送に使われています。値段は、1台100万円と結構高額です。</p> <p>私も試着しましたが、使い勝手は以前に比べて随分よくなっており、事業所では腰痛防止に効果を感じておられます。しかし、補助制度を活用してもかなりの出費であり、導入したところでも、1台か2台を入れておられる状況です。</p> <p>労働基準監督署によると、現在、労働災害が福祉、医療関係と小売業で増加しているとのこと。従事者の高齢化もあって、腰痛が一層増えており、労働基準監督署としても、介護保険施設での腰痛対策を求める方向で、介護ロボットの導入も進めて欲しいとのことです。</p> <p>実際に使われた経験談を共有したり、試着の機会を設けるとよいと思っています。</p>
E 委員	<p>特別養護老人ホーム側では、介護ロボットやICTを施設に導入したからといって、たちまち業務負担の軽減や効率化が図られるものではなく、これらを用いて安全に効率的に業務を進めるための事業所内のしくみづくりが重要です。</p> <p>手書きの記録からデジタル化するには、システムの勉強や、高齢の職員を含め一人ひとりがそれを使いこなすための研修を行ったうえで、慣れるための期間を設定し運用開始していく必要があります。また、運用後は、適切に使えているかチェックし管理するしくみが必要になり、業務管理に時間がかかることが考えられます。</p> <p>このように施設全体でシステムを構築し運用するには、かなりの時間や経費がかかりますが、小規模事業所では、こうした努力が1人の職員に集中してしまいがちになることにも留意が必要です。結果、定員が多くて職員数が多い事業所の方が、まだ導入し易いと感じています。</p> <p>導入の課題は、費用だけでなく、介護ロボットを使いこなせる人材育成や環境づくりが不可欠であり、介護業界全体でICT等を普及させるには、導入補助金だけでなく、円滑に導入するための成功事例の共有や、研修等の支援も検討いただきたいと思っています。</p>
会長	<p>産業分野では、かなり腰痛対策に取り組んでおり、先日職場巡視した市内企業でも、数キロのものに熱をかける作業を、以前は一つずつ手でやっていたが、今回は自社開発した安全装置の付いた機械を使っていました。</p> <p>生産性向上ではなく、腰痛対策と火傷防止のために開発したもので、当該機器の製造コストも大きいと聞き、複数の工場で共同開発したと聞きました。こうして蓄積された産業現場のノウハウが、介護現場で活用できるとよいです。</p>
事務局	<p><u>「第9期計画策定に向けたスケジュールについて」の説明</u> 資料4</p>
会長	<p>令和5年度は介護保険事業計画策定の年なので、例年より2回多く協議会を開催する予定です。なお、今期の委員の任期は、来年3月までです。</p> <p>(質疑なし)</p>
会長	<p>各委員から情報提供があればお願いします。</p>

<p>F 委員</p>	<p>県内西部で、インフルエンザA型が確認されました。確実にインフルエンザが流行するので、その準備として特に高齢者にはワクチンを接種して欲しいと思います。</p> <p>また、感染症対策として、これまでどおり人の集まる場所ではマスク、手洗い、特に家に帰ったら30秒以上しっかり手を洗うことと、うがいをすることを徹底していただきたい。もちろん健康観察も大事です。</p> <p>施設等にあつては、国から配布されてる検査キットを用いて、例えば週に2回定期的に、症状はなくても全職員に対する検査をしていく取組ができないか、沖縄の例に倣って、提案させていただきたいと思っています。</p> <p>利用者と直接接する職員については特に、早めに感染を把握することが大事です。</p> <p>インフルエンザを新型コロナの同時流行を想定し、出雲圏域で1日数千人規模の診療体制を作らなければならないが、病院の診療に負担をかけない仕組みづくりに悩んでいます。</p> <p>出雲医師会の先生方にも、診療検査医療機関（概ね60医療機関）を始め、専科の開業医にも、しっかりインフルエンザと新型コロナの両方の対応をしていただくようお願いします。</p> <p>それと、医療機関の逼迫を避けるため、適切な医療機関への受診をお願いしていく必要があります。</p>
<p>会長</p>	<p>新型コロナワクチンについて、何か情報提供はありますか。</p>
<p>健康福祉部長</p>	<p>新聞報道によると、オミクロン株BA.5対応ワクチンが接種可能になるとのこと。また、従来5ヶ月だった接種間隔が3ヶ月に短縮されるとのことです。</p> <p>今後、正式通知がある予定ですが、今年7、8月に4回目接種を受けられた60歳以上の方々が、年内にオミクロン株対応ワクチンが接種可能になります。</p>
<p>会長</p>	<p>議事はこれで終わります。</p>
<p>6. その他事項 事務局</p>	<p><u>「認知症ケア・フォーラムの開催について」の説明</u></p> <p>今後の予定について、令和5年1月下旬に各部会を開催し、2月に第3回の運営協議会を開催する予定です。</p> <p>以上をもちまして本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。</p>